

平成19 年度
都市景観大賞「美しいまちなみ賞」

受賞地区の概要

「都市景観の日」実行委員会

都市景観大賞 「美しいまちなみ賞」

■都市景観大賞「美しいまちなみ賞」 について

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」は、美しいまちなみを創り、育てるために、公民が協力し、ハードとソフトを含めた総合的な取り組みが行われている地区を全国から募集し、その中でも特に優れた地区について表彰を行い、広く国民に紹介していくことにより、より良い都市空間の形成を目指すものです。

■審査と表彰

都市景観大賞「美しいまちなみ賞」審査委員会において、応募図書等をもとに、まちなみの整備や維持、保全に関する活動の新しさ、独創性、模範性などのほか、地域再生、都市再生や観光交流面でのアピール性等を審査した上で、下記の3つの賞を選定します。

① 美しいまちなみ大賞

国土交通大臣による表彰

② 美しいまちなみ優秀賞

(財)都市づくりパブリックデザインセンター会長
による表彰

③ 美しいまちなみ特別賞

(財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長
による表彰

■対象地区の要件

次の二つの要件に該当する地区を対象とします。

- (1) 地方公共団体(都道府県又は市町村又は特別区)と市民等が協力し、街路や公園等の公共空間と建築物等による民有空間を一体とした美しいまちなみが整備されていること。建築物等の規制・誘導、電線類の処理、広告物の整序などが考慮されており、あわせて沿道景観等にも配慮した道路等の公共施設の整備が行われていること等。
- (2) まちなみの維持・保全に係わるNPO等のまちづくり組織等が設立され、適切に管理・運営がなされるとともに、まちなみが十分に活用され、地域の活性化が図られていること。

【都市景観大賞「美しいまちなみ賞」審査委員会 委員名簿】

委員長	中村 良夫	東京工業大学 名誉教授
委員	岩淵 潤子	慶応義塾大学 教授
	卯月 盛夫	早稲田大学芸術学校 教授
	加藤 源	都市プランナー
	岸井 隆幸	日本大学 教授
	輿水 肇	明治大学 教授
	田中 一雄	環境・工業デザイナー
	富田 泰行	照明デザイナー
	富田 玲子	建築家
	松葉 一清	建築評論家

国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課長

国土交通省 都市・地域整備局 市街地整備課長

国土交通省 住宅局 市街地建築課長

(順不同、敬称略)

受賞地区一覧

「美しいまちなみ大賞」

地 区 名	応 募 者
きたきゅうしゅうしむらさきがわ 北九州市 紫 川マイタウン・マイリバー整備地区（福岡県北九州市）	・紫川マイタウンの会 ・北九州市
やまがしづせんかいどうやまがおんせんかいわい 山鹿市豊前街道山鹿温泉界限地区（熊本県山鹿市）	・熊本県建築士会山鹿支部まちづくり景観研究部会 ・山鹿市

「美しいまちなみ優秀賞」

地 区 名	応 募 者
みはるまちおおまち 三春町大町地区（福島県田村郡三春町）	・磐州通り街づくり協定運営委員会 ・三春町
かわぐちし 川口市リボンシティ地区（埼玉県川口市）	・（独）都市再生機構 埼玉地域支社 ・川口市 ・サッポロビール(株) ・(株)イトーヨーカ堂 ・東武鉄道(株) ・パシフィックプログラムマネージメント(株) ・(株)コスモスイニシア ・(株)プレイスメディア
とよたしきくらまち 豊田市桜町地区（愛知県豊田市）	・桜町まちづくり協議会(桜町ほうだら会) ・豊田まちづくり(株) ・豊田市 ・(株)創建
いせしじんぐうさんどう 伊勢市神宮参道地区（三重県伊勢市）	・神宮参道懇話会 ・伊勢市 ・三重県
うべしちゅうおうちようさんちようめ 宇部市中央町三丁目地区（山口県宇部市）	・宇部中央地区再開発推進協議会 ・宇部市
うちこちようようかいち ごこく 内子町八日市・護国地区（愛媛県喜多郡内子町）	・八日市護国地区町並保存会 ・内子町

「美しいまちなみ特別賞」

地 区 名	応 募 者
ながおかしとちおおもてまち 長岡市栃尾表町地区（新潟県長岡市）	・栃尾表町区まちづくり委員会 ・新潟大学 工学部 ・長岡市

審査委員長 総評

応募作品は、例えば「三春町大町地区」や「内子町八日市・護国地区」のように、長期間の粘り強い歩みを感じさせる力作がおおく、裏通りの魅力など奥行きのある美しい町並みを達成しているが、生活の活性化には工夫の余地のある例もみうけられた。この点でとくに、大賞の2作は町づくりの歴史を画す成熟を感じた。

「北九州市紫川マイタウン・マイリバー整備地区」は、かつて人を寄せ付けない垂直護岸の岸辺に公園、プロムナードなどの公共施設だけでなく再開発事業などにより、川に顔を向けたオープンカフェ、レストランなどの賑わいが演出された。デザインの一部には議論があるものの、長期にわたる営為が実った河岸型複合都市デザインとして、印象深い水辺のライフスタイルを都心に創った。

「山鹿市豊前街道山鹿温泉界限地区」は国指定重要文化財の八千代座の復興を中心に、伝建地区の指定なしに古い町並みを丁寧に保存した市民の熱意と見識に感銘をうけるが、そればかりか、古建築群が保存と維持をこえて市民の日常生活のなかにとけ込み、中心市街地の立役者として立派に生きている点が高く評価された。

美しい町並みは一過性の見せ物ではない。洗練された生活文化創成と魅力的な日常生活の基盤として生き続ける都市デザインの応募を期待したい。

審査委員長 中村良夫（東京工業大学名誉教授）

美しいまちなみ大賞

北九州市紫川マイタウン・マイリバー整備地区

所在地 福岡県北九州市
地区面積 約170ha
応募者 紫川マイタウンの会
北九州市

＜地区の概要＞

当地区は北九州市小倉北区の中心を流れる紫川下流部に位置し、かつて川は垂直の護岸に覆われ人が寄りつせず、岸辺の建物は川に背を向けた街であった。

平成2年に当時の建設省による「紫川マイタウン・マイリバー整備計画」の認定を受け、その後市民アイディアの盛り込まれた整備計画に従い、数々の橋梁や、公園、プロムナード等の公共施設や川沿い市街地（再開発事業等）が河川と一体的に整備され、川に顔を向けた、美しく魅力的なまちなみが形成されている。

整備された公共空間を活用して、オープンカフェや貸しボート、遊覧船などの四季折々のイベントが民間主体により行われている。また紫川沿線の多くのまちづくり団体によって、清掃活動や河川体験学習など、美しい河川景観の維持に繋がる取り組みが行われている。

こうした取り組みによって、川で分断されていた東西地域に一体感が生まれ、川を中心に回遊性と賑わいが高まっている。



▲ 市庁舎周辺には、複合商業施設や紫川と一体となった勝山公園大芝生広場が整備された。



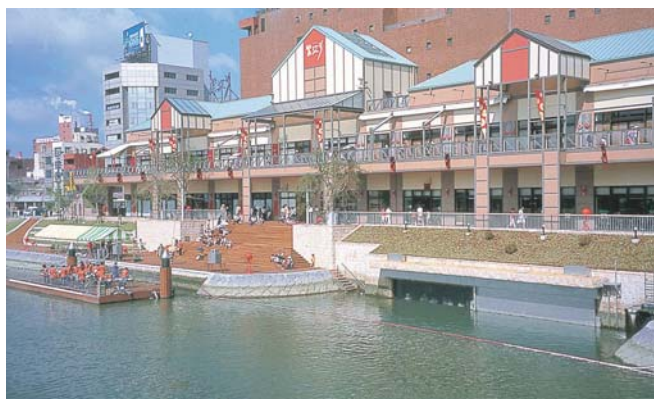
▲ 冬の風物詩となった「ファンタスティックイルミネーション」。手前に紫川10橋の一つ「水鳥の橋」(鷗外橋)、奥は複合商業施設「リバーウォーク北九州」。



▲ 市庁舎前の「洲浜ひろば」は、川を活用した行事や子供の水遊びの場として利用されている。



▲ 紫川10橋の一つ「石の橋」(勝山橋)。公園区域として整備された広い歩道では、まちづくり団体によりオープンカフェが行われ、賑わいを見せている。



▲ 紫川右岸には河川と一体となって整備された民間の商業施設「紫江'S」がある。地下には、紫川の体験学習施設「水環境館」がある。ここでは、紫川を直接覗ける観察窓も整備された。



▲ 水がきれいになった紫川では、カヌーや貸しボート、遊覧船などの水面を活用したイベントが行われている。

美しいまちなみ大賞

山鹿市豊前街道山鹿温泉界限地区

所在地 熊本県山鹿市
地区面積 約6.5ha
応募者 熊本県建築士会山鹿支部
まちづくり景観研究部会
山鹿市

＜地区の概要＞

当地区は山鹿市（人口6万人）の中心市街地を南北に横断する豊前街道沿いに位置し、古くから菊池川の水運事業に支えられた米の集散地として、また藩主細川氏の参勤交代の宿場町として発展してきた地区である。

地区内には、国指定の重要文化財「八千代座」をはじめとする伝統的建造物が多く残っており、これらの歴史的建造物の修景事業とともに、豊前街道の街路事業が進められ、電線類の地中化、歩道部に地元産の鍋田石を使った石張、歴史に基づく側溝の整備、外灯整備などが実施され、地域に根ざした落ち着いた沿道景観が形成されている。

また地元住民主導による街並みを活かした多彩なイベント（米米窓門ツアーや千代の園新酒祭り、豊前街道八千代座祭など）が実施されている。

こうした官民協働の取組みにより、地区の活気が徐々に戻り、山鹿市を代表する観光スポットとなりつつある。



▲江戸時代からつづく造り酒屋や麴屋が今でも営業しており、電線が地中化された通りで店主が客をもてなす。



▲国指定重要建造物の八千代座は、有名歌舞伎役者から地元小学生までが同じ舞台に立てる生きた芝居小屋である。廃墟同然から地域住民の手により復興し山鹿市の誇りとなっている。



▲歴史的建造物の修景が進み、商店では閉店後も照明をつけて通りの雰囲気を出している。



▲江戸時代の質屋が地元匠によって修景された。



▲豊前街道から八千代座への入口に整備された公園とトイレ。



▲造り酒屋跡。廃業した酒蔵を空家対策として駄菓子屋に再生。奥の蔵ではミニコンサートも開催される。

美しいまちなみ優秀賞

三春町大町地区

所在地 福島県三春町
地区面積 約2.52ha
応募者 磐州通り街づくり協定運営委員会
三春町

＜地区の概要＞

当地区は国道288号及び県道飯野三春石川線に接する三春の中心商店街で、背後には風致地区に指定された紫雲寺山の緑や城下町時代を偲ぶ社寺があり、自然や歴史的環境に恵まれている。

昭和58年に策定されたHOPE計画を出発点に、三春町景観条例の制定（「市街地景観整備等特別地区」として指定）、まちづくり協定の締結などを経て、城下町時代の雰囲気（短冊型敷地、蔵並等）や豊かな緑を活かした「歴史公園都市」としての街なみ空間形成が図られている。

商店が面する表通りと、住宅や蔵が面する裏道（通路）を整備し、これに小公園等を有機的にむすびつけて回遊性を高めている。

地元民が参加する磐州通り街づくり協定運営委員会が、街路灯の電気料、小公園の水飲み場の水道料の負担をはじめ、樹木の剪定、除草、日常の清掃活動等を行っている。



▲ 裏道（通路）と有機的に結びつけたポケットパーク。
磐州通り街づくり協定運営委員会による日常の清掃活動により、維持管理されている。



▲ 石畳により整備された通路（裏道）。
ここ紫雲寺にお墓がある自由民権運動家の「磐州翁河野広中」に因んで「磐州通り」と名づけられる。



▲ 自動車整備工場跡の建物を解体した場所を、小公園と通路として整備した。



▲ 磐州通りの南側に平行して在る表通りは、三春町景観条例により景観誘導し魅力ある個店が連なる商店街となっている。
歩道の御影石仕上げや電線地中化等の景観整備がされている。



▲ 屋根を街路に面して平入りに揃えることにより、家並みの連坦性を強調し商店街の統一を図っている。



▲ 三春交流館「まほら」のイベント広場において、定期的に開催されている磐州市。

美しいまちなみ優秀賞

川口市リボンシティ地区

所在地 埼玉県川口市
地区面積 約12ha
応募者 (独)都市再生機構埼玉地域支社
川口市
サッポロビール(株)
(株)イトーヨーカ堂
東武鉄道(株)
パシフィックプログラムマネジメント(株)
(株)コスモスイニシア
(株)プレイスメディア

＜地区の概要＞

本地区はJR川口駅から北約800mに位置し、大正12年から操業を続けた(株)サッポロビールの工場があった場所である。

平成14年に工場の閉鎖発表に伴い、当時の都市基盤整備公団が工場跡地開発のコーディネート業務を受託し、住宅市街地整備総合事業による都市再生計画を策定。川口市に事業者提案型地区計画を提出。「『まち歩き』が楽しい都心空間」の形成をコンセプトとして回遊性の高い緑豊かな空間整備を目指し、川口市の整備する歩行者専用道路や、民有地の公開空地を活用したモールなど、官民一体の歩行空間ネットワークを形成している。

事業関係者が計画段階から地区のランドスケープに関する価値観を共有し、地区の象徴となる並木道の形成や、多様な事業者間で緑化協定を交わし将来に渡って緑を支える仕組みをつくりあげた。まち開き後は、多くの市民が集う「サッポロメモリアルリボンシティまつり」など、多彩なイベント等が実施されている。



▲「まち歩きが楽しい都心空間の実現」のため整備された「アクティブモール」。隣接する民地から1列、公園から2列かつ並木が配置され一体的な歩行空間が形成された。



▲当地区の中心を貫く2号道路沿いの歩道空間。公園と道路歩道部分で同じく協定書に基づく植栽配置を行い、ゆとりある歩行空間を実現した。



▲アートパーク全景。開放的な空間構成からなっており、様々な市民のアクティビティを受け入れることができる。



▲様々なアクティビティを受け止める芝生広場。子供たちが安心してはだして駆け回れる貴重な空間となっている。



▲アートパークとは別に、地区内には遊具等を設置した個性的な街区公園が3箇所配置されている。写真は線路沿いの環境を逆手に取ったスケートボード専用公園。



▲工場稼働時に毎年地域に開放されて行われていた「ビアフェスティバル」が、リボンシティのまち開き後も川口市の主催により「サッポロメモリアルリボンシティまつり」として引き継がれている。

美しいまちなみ優秀賞

豊田市桜町地区

所在地 愛知県豊田市
地区面積 約2.2ha
応募者 桜町まちづくり協議会
(桜町ほうだら会)
豊田まちづくり(株)
豊田市
(株)創建

＜地区の概要＞

当地区は、名鉄豊田市駅を中心とする市街地の南東側に位置し、拳母神社の門前町として、かつては賑わいを呈したが、近年活気が失われていた。

既存商店街全体の活性化を図るため、地区内の市道中町線の再整備について、桜町まちづくり協議会が中心となって「現代の参道づくり」を整備テーマに、八日朝市や歩行者天国等のイベント利用に配慮した計画案を検討し、ユニバーサルデザインに基づく、歩車道を一体化した道路空間を整備。あわせて、沿道商店街の建物ファサードの修景を一体的に進め、美しい沿道景観を形成しつつある。

道路の植栽について地元住民が自主的に維持管理をし、また住民と行政の協働により季節によって変化する花飾りを進めている。まちづくり協議会による「八日朝市」等の多彩な催しが実施されている。

こうした取組みを機に、商店や街に活気が戻り、まちづくりへの住民意識も高まり、今後景観の自主協定づくり等の検討機運も醸成されてきている。



▲歩車道一体化による広場のような街路景観を形成している。



▲商店街前にある寄植えによる庭のような植栽帯。



▲ファサードの軒先を一体的なデザインで再構成。



▲民地側の駐車場を歩道と一体的にしている。



▲歩車道境界をあいまいにして、車両の速度抑制をする。



▲オープンカフェのような八日朝市の様子。

美しいまちなみ優秀賞

伊勢市神宮参道地区

所在地 三重県伊勢市
地区面積 約0.5ha
応募者 神宮参道懇話会
伊勢市
三重県

＜地区の概要＞

当地区は、JR伊勢市駅前広場から外宮（げくう）へつながる神宮参道（県道伊勢市停車場線）の沿道商店街であり、店舗、店舗併用住宅、戸建住宅が混在する地区である。

神宮参道は昭和57～58年に電線類の地中化とともに植樹帯を配置したコミュニティ道路として整備されたが、平成16年に地域住民が主体のまちづくり団体「神宮参道懇話会」が参画してとりまとめた「まちなみまちづくり提言」に基づき、神宮参道の修景整備が着手され、イベントなどにも活用しやすいように全幅員（約10m）をフラットにし、神宮参道にふさわしい石張り舗装、雰囲気のある照明灯などによる修景整備が実現した。

神宮参道懇話会を中心として、「灯りイベント」、「ゆかたで千人参り」、「外宮ちびっ子博士グランプリ」、「楽市（らくいち）」などの多彩なイベントが開催され、まちの賑わいなど中心市街地活性化に向けた動きが徐々に生まれつつある。



▲神宮参道（県道伊勢市停車場線）
外宮側から伊勢市駅方面を望む。全面フラットな石張り舗装の修景整備が完了済み（歴史文化ゾーン）。



▲高張り提灯（たかはりちょうちん）
外宮にささげる「献燈」とした提灯を地元住民が設置。照明灯への添架、電源確保などで設計段階で工夫している。



▲神宮参道（県道伊勢市停車場線）
伊勢市駅側から外宮の森を望む。全面フラットな石張り舗装の修景整備が完了済み（賑わいゾーン）。



▲「たおやめ会」による清掃、植栽など
地元女性まちづくりグループが自主的に清掃、植栽を行っている。竹細工の工夫など参道らしさを演出している様子。



▲楽市（らくいち）
年に2回、露天市場による地産地消の商品販売で賑わう通りの様子。



▲第62回式年遷宮（平成25年）に向けた遷宮神事
「お木曳き」

美しいまちなみ優秀賞

宇部市中央町三丁目地区

所在地 山口県宇部市
地区面積 約1.2ha
応募者 宇部中央地区再開発推進協議会
宇部市

＜地区の概要＞

当地区はJR宇部線の宇部新川駅の南約300mに位置する。古くから商業系、飲食系を中心とした土地利用がなされ、戦災を逃れた経緯等から道路幅員が狭く、老朽化した建物も密集していた。

平成9年に地元まちづくり団体として「宇部中央地区再開発推進協議会」が発足し、ワークショップにより区画整理事業を念頭に置いた「整備計画案」及び「街並み形成のガイドライン」を検討。平成13年度より都市再生区画整理事業を実施し、電線類の地中化やレンガ・自然石を用いた舗装等、景観に配慮した道路・広場を整備。あわせて民間による建物更新についても、協議会により「街づくり協定」が作成され、屋根の材料・勾配の統一、外壁の色の統一、1階部分のセットバック等の協調化を図り、統一感のある美しい街並みを実現した。

この事業によって地区の人口が増加し、事業地区に隣接した商店街では、出店希望が増加しているなど周辺への今後の波及効果が期待されている。



▲ 北側から見た事業地区。中央奥の建物は3階以上が借上型市営住宅になっており、48戸が入居している。



▲ 街づくり協定により建物1階部分はセットバックされている。また、民間のセットバック部分の舗装については道路の舗装と整合をとることとした。



▲ 街づくり協定により屋根材を同一の瓦製品とし、3.5寸勾配北下りの片流れ屋根で統一されている。



▲ 地区の北側の広場には、通りの名前を採って住民の希望によりしだれ桜が植えられ住民の手で管理されている。



▲ 街づくり協定により外壁は、土系の色（アースカラー）で統一されている。



▲ 民間の建物のセットバック部分にステージを設置しイベントを実施している。

美しいまちなみ優秀賞

内子町八日市・護国地区

所在地 愛媛県内子町
地区面積 約3.5ha
応募者 八日市護国地区町並保存会
内子町

＜地区の概要＞

当地区は、内子町（人口2万人）の中心市街地にあり、旧松山街道沿いに開けたまちである。江戸時代後期から明治期にかけては製蠶業の中心地として栄え、漆喰塗屋造りの重厚な建物が数多く残されている。

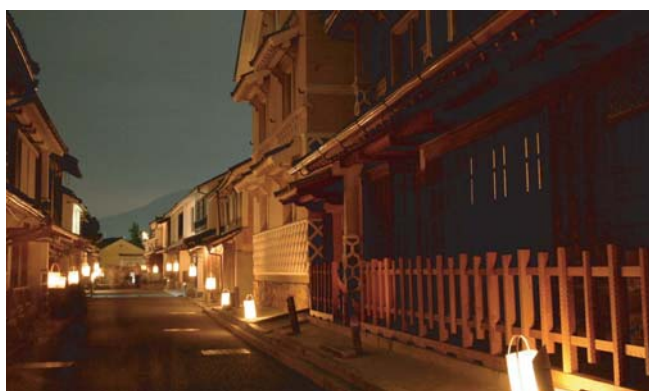
昭和57年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、歴史的環境を維持するとともに、電線の地中化や、背後に位置する町営住宅の木造平屋造りなど、内子らしい歴史と文化を生かした景観を形成している。

町並保存運動の推進拠点として、地区内の民家を借り受けて「八日市・護国町並保存センター」を設置。住民の手で管理運営されている。このほか月1回の地区内清掃活動を実施。また町並保存会による伝統的行事「どんど焼き」の復活のほか、町との共催による「町並み観月会」など、多彩なイベントが実施されている。

こうした町並形成により、年間数十万人の人が訪れる愛媛県内有数の観光地へと成長し、周辺地域への立ち寄り客も増えている。



▲ 八日市地区を南側から望む。緩やかに曲がった街道に沿って平入りの町家が並ぶ。路面は、街なみ環境整備事業で整備した透水性の舗装。



▲ 毎年、中秋の名月に合わせて、町と町並保存会が共同で主催している「町並観月会」。通りには、保存会手作りの吊り行灯と竹行灯を設置。町家を開放した演奏会など多彩なイベントを実施。



▲ 製蠶業で栄えた当時の豪商の屋敷「本芳我家住宅」。重要文化財に指定されている。平成18年9月、3力年に渡った修理事業が完了し、往時の姿に甦った。



▲ 町並保存運動の影響で奇跡的に残すことができた木造劇場「内子座」。取り壊されて駐車場になる寸前だった。現在は、町民の文化の殿堂として様々な催しに活用されている。



▲ 地域住民が毎月第1日曜日に実施している地区内清掃活動。箒やゴミ袋を手に、町並保存地区を一巡する。



▲ ワークショップを重ねて完成したポケットパーク「清正ひろば」。写真は、保存会主催で実施している「どんど焼き」の様子。

美しいまちなみ特別賞

長岡市栃尾表町地区

所在地 新潟県長岡市
地区面積 約3.0ha
応募者 栃尾表町区まちづくり委員会
新潟大学工学部
長岡市

＜地区の概要＞

当地区は、「栃尾城」城趾の麓に位置し、300mほど町屋の連なる中世発祥の在郷集落である。国内でも有数の豪雪地であり、冬場の貴重な歩行空間として「雁木」が現代まで残り、これらが連なることで独特の地域景観を醸し出している。しかし近年歯抜け状態が見られるようになった。

雁木が連続する独特の地域景観を復活させようと、平成9年より、地域住民、新潟大学、行政との協働で歯抜け雁木の解消、老朽雁木の再建に取り組み、短期間で集中的に実施するのではなく、長い時間をかけて、住民によるセルフチェックを行いながら少しずつ環境を改善していくという活動方針のもと、平成12年より毎年新たなデザイン雁木を建築している。平成13年に住民相互の紳士協定である「表町まちづくり協定」を締結。また、地域において植樹や環境美化活動などの取り組みが行われている。

こうした取り組みにより地域コミュニティが一層醸成し、住環境の向上とともに観光客の増加にもつながっている。



▲ 栃尾表町は約300mにわたって冬場の歩行空間を確保するための「雁木」が連なり、独特の街並みをつくりだしている。



▲ 建てられた雁木には照明も取り付けられ、表町の静かな夜に新たな表情と安心感を与える。



▲ 雁木は一つ一つが違うため、雁木下のシークエンスは変化に富んでいる。これが栃尾表町の雁木の特徴でもある。



▲ 住民と学生は楽しみながら、まちづくりをしている。こうした交流の中から新たなまちなみが生まれる。



▲ 新しく生まれた雁木にはベンチなども取り付けられ、まちの新たな「よったかり」の場となっている。



▲ 雁木の建設は住民と学生が中心となり、地元工務店の協力を得て行われる。また地区の小学生なども見学に訪れる。この活動は生きた学習の場でもある。